

必要は記憶の母

「必要は発明の母」ということわざがあります。必要が発明を生む原動力であることはたしかですが、必要は記憶の母であることも、また、まちがいない事実だと思います。ひどくわすれっぽい人でも、わすれてはたいへんだというたいせつなことだけは、けっしてわすれないものだからです。

文化勲章を受けた岡潔博士のお話ですが、博士は、学生時代、試験のための記憶が、ひじょうにじょうずだったといいます。試験が済むまではよく覚えているが、試験が済むと、決まって、とたんにすっかりわすれてしまう、ということでした。

これなどは、ほんとうに、必要が生んだ記憶の代表的なものだと思いますが、これほどはっきりした経験はなくても、これに近い経験は、だれでもきっとあるにちがいません。

実はこれは、心理学者アールによって、もう 50 年ものむかしに、実

験され、発表されていることです。つまり、記憶するときの心がまえというものが、記憶や忘却に大きなえいきょうをもっているということを、アールは実験によって証明しているのです。

だから、たいせつなことをよくわすれるという人は、そのたいせつなことを、実はそれほどたいせつなことだとは思っていないからわすれる、ということになります。つまり、わすれっぽい人というのは、ものごとに関心な人、無とんちゃくな人ということになります。